

平成 30 年度 第 1 回 学校評議員会議事録

日 時 平成 30 年 5 月 30 日 (水) 15 : 30 ~

場 所 本校小会議室

参加者 評議員 井 上 美奈子 様 (健康科学大学教授)
太 田 敏 夫 様 (平成 27 年度本校 P T A 会長)
宮 下 侗 様 (富士吉田市立下吉田中学校長)
宮 下 美佐江 様 (石原会計事務所)

職 員 校長・事務長・第一教頭・第二教頭・総務部職員 (記録)

1 校長挨拶

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 学校評議員の活動に関する説明

- (1) 学校評議員設置要綱について
- (2) 昨年度の活動報告について
- (3) 今年度の年間計画について
・参観可能行事について

5 本校の概要説明

- (1) 教育目標等について
- (2) 吉高 GP について 「自己肯定力」の定義付け再確認
昨年度からの文言の変更点について
- (3) 学校の概要について
H29 進路状況について
各学年の状況
部活動について (総体女子 4 位)
蒼風祭について
学校評価項目について 他

6 懇 談

評議員 : 自己効用感、自己有用感という用語について。

吉高生は自己に厳しい。自己肯定力をあげるのはなかなか難しいと考えます。

校 長 : 心理学の用語である。生徒は自己に厳しく、自己肯定感が低い生徒も多い。今年度は、「短所も含めて、自己を認める力」であると定義づけた。吉高生はみんな頑張っている。

評議員 : 蒼風祭でのミュージカルはレベルも高く素晴らしい。

校 長 : 吉田高校の伝統の力。年々レベルが上がっている。

評議員 : 高校ではポートフォリオの導入が始まったそうだが、中学生に伝えておきたいことはあるか。

評議員 : 今年度、大学側も段階的に導入はするものの、本格的な導入はまだである。中

- 学生はまだ様子を見ていてよいと思う。
- 評議員 : 課題研究における生徒の取り組みが素晴らしい。大学の職員もよい刺激になった。
- 評議員 : 国立大学は学問に非常によい環境である。吉田高校の生徒にもよい環境で学んで欲しい。
- 校長 : 在校生徒の多くが国公立大学を志望している。進路を実現できるように学校も努力を続ける。
- 評議員 : 大学でもパソコンのキーボードを使えない学生が多くなっている。スマホの影響が感じられる。吉田高校での指導はどうしているのか。
- 校長 : パソコンは情報の時間に指導している。
校内ではスマホは生徒が個人で管理しているが、大きな問題はない。
- 評議員 : 子供たちは自覚を持った使用をしていた。
スマホの使用はもちろんであるが、子供たちはあらゆる場面で吉田高校生としての自覚を持って行動している。
- 評議員 : 部活動が 19 時までとなっているが、部活動練習時間については様々な意見を耳にする。現状を維持してほしいと思うが変更はないか。
- 校長 : 職員の勤務時間の問題もあるので難しいこともある。
生徒は限られた時間の中で活動し、成果も上げている。
家庭での時間も大切にしたい。

7 諸連絡

終了